

科目名	商品製作	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	実習70% 調査20% 講義10%
時間数	180	作成者	上田久美子
【科目の到達目標】 現在の市場を意識した商品のデザインと実習作品で商品サンプルを製作する。 また、商品についてのプレゼンテーション書類を作成し発表する。			
【科目の概要】 市場分析などマーケティング的な観点から素材選定、パターン、デザインを企画し、実習作品を制作する。 また、現実的な商品を意識しながら企画できるように工場や産地見学、市場調査などを実施する。 アパレルに関する「川上から川下」工程をミニマムに一気通貫で実践的に学ぶ。産学官連携。			
【授業計画】			
90分/コマ		前期	後期
1 2	「商品製作」とは(産学官連携企画)	31 32	ビジネスプラン企画ブランドからデザイン展開
3 4	リーバイス501研究	33 34	商品構築
5 6	プレゼンテーション	35 36	プレゼンテーション
7 8	岡山デニム研修	37 38	産×学連携、製作
9 10	501デニム製作	39 40	産×学連携、製作
11 12	501デニム製作	41 42	産×学連携、製作
13 14	501デニム製作	43 44	産×学連携、製作
15 16	501デニム製作	45 46	産×学連携、製作
17 18	501デニム製作	47 48	産×学連携、製作
19 20	プレゼンテーション	49 50	産×学連携、製作
21 22	創作デニム製作	51 52	産×学連携、製作
23 24	創作デニム製作	53 54	産×学連携、製作
25 26	創作デニム製作	55 56	産×学連携、製作
27 28	創作デニム製作	57 58	産×学連携、製作
29 30	プレゼンテーション	59 60	プレゼンテーション
【成績評価方法】 提出物評価60% テスト30% 授業態度10%			
【教科書・参考書】 『洋裁』 服飾手帖社刊など適宜			
【教材・教具】 実習用具一式 製図用具一式 筆記用具 コンピュータなど適宜			

科目名	産学官連携ワーク	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	調査70% 講義30%
時間数	60	作成者	上田久美子
【科目の到達目標】 現在の市場を意識した商品のデザインを研究。 また、商品についてのプレゼンテーション書類を作成し発表する。			
【科目の概要】 商品製作科目と連動 市場分析などマーケティング的な観点から素材選定、パターン、デザインを企画し、研究する。 また、現実的な商品を意識しながら企画できるように工場や産地見学、市場調査などを実施する。 アパレルに関する「川上から川下」工程をミニマムに一気通貫で実践的に学ぶ。産学官連携。			
【授業計画】			
90分/コマ		前期	後期
1	「商品製作」とは(産学官連携企画)	16	地元自治体研究
2	リーバイス501研究	17	地元自治体研究
3	プレゼンテーション	18	地元自治体研究
4	岡山デニム研修	19	地元自治体研究プレゼンテーション
5	501デニム研究	20	産×学×官連携フィールドワーク
6	501デニム研究	21	産×学×官連携 研究
7	501デニム研究	22	産×学×官連携 研究
8	501デニム研究	23	産×学×官連携 研究
9	501デニム研究	24	産×学×官連携 研究
10	プレゼンテーション	25	産×学×官連携 研究
11	創作デニム ディティール研究	26	産×学×官連携 研究
12	創作デニム ディティール研究	27	産×学×官連携 研究
13	創作デニム ディティール研究	28	産×学×官連携 研究プレゼンテーション
14	創作デニム ディティール研究	29	ニューヨーク研修 研究
15	プレゼンテーション	30	ニューヨーク研修 研究
【成績評価方法】 提出物評価60% テスト30% 授業態度10%			
【教科書・参考書】			
【教材・教具】 筆記用具 コンピュータなど適宜			

科目名	ファッションビジネスプランニングⅠ	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 70 % 実習 30 %
時間数	120	作成者	井垣 敦資

【科目の到達目標】

ファッションビジネスの観点から生活者とファッションの関係性を探り、特性や構造について理解し考察できる。
ファッションビジネスにおける実践的な知識を身につけることを目標とする。

【科目の概要】

アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる為の基礎知識を教授する。ファッションビジネスに必要なマーチャンダイジングからマーケティングまでの知識を養いながらアパレル業界の現状と問題点を分析し、今後の展望を考察する。

【授業計画】

前期 90分/コマ		後期	
1・2	オリエンテーション/ファッションビジネスの概要	31・32	前期振り返りまとめ/マーケティング環境分析
3・4	ファッションビジネスの特性/流行予測	33・34	ビジネスモデルの考察①
5・6	これからのファッションビジネス	35・36	ビジネスモデルの考察②
7・8	ファッションマーケティング論①	37・38	ファッションマーチャンダイジング演習①
9・10	ファッションマーケティング論②	39・40	ファッションマーチャンダイジング演習①
11・12	小売産業の経営計画	41・42	ファッションマーチャンダイジング演習①
13・14	ファッションブランド開発①	43・44	VMDの基礎
15・16	ファッションブランド開発②	45・46	VMDの分析(フィールドワーク)
17・18	ファッションロジスティクス視察	47・48	VMDの演習①(フィールドワーク)
19・20	ソーシャルコンセプトからの商品開発①	49・50	VMDの演習②(フィールドワーク)
21・22	ソーシャルコンセプトからの商品開発②	51・52	事業計画①
23・24	ファッションビジネスの計数①	53・54	事業計画②
25・26	ファッションビジネスの計数②	55・56	事業計画③
27・28	中間発表	57・58	最終プレゼン発表
29・30	前期まとめ 試験	59・60	後期まとめ 試験

【成績評価方法】

課題70 % 試験20% 出席、授業態度 10 %

【教科書・参考書】

スライドデータを共有

【教材・教具】

筆記用具、PC

科目名	ファッションデザイン&プランニング I	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 50 % 実習 50 %
時間数	60	作成者	杉山佳美
【科目の到達目標】 ビジネス的な観点から捉えたファッションとアパレルデザインに関する知識を講義と演習により修得する また、任意に想定した企業向けプロダクト提案書類・広告媒体デザインをコンピュータを使って作成できる。			
【科目の概要】 コンピュータの操作とアプリケーションの基礎的な使用方法の解説と演習を行い、クリエイティブ職において必要なデザイン思考、スキルを習得する。後期には各々のアイデアを可視化した広告媒体の作成を行う。			
【授業計画】			
90分/コマ		前期	後期
1	イタリア研修 プレゼンリハ	16	Photoshop演習⑦
2	デザイン基礎知識 1	17	Photoshop演習⑧
3	デザイン基礎知識 2	18	バナー作成演習
4	Photoshop演習①	19	バナー作成演習
5	Photoshop演習 プリント版作成	20	バナー作成演習
6	校外学習 プリント体験ワークショップ	21	地域コラボ 企画案
7	校外学習 プリント体験ワークショップ	22	地域コラボ 企画案
8	Photoshop演習②	23	チラシ作成①
9	Photoshop演習③	24	チラシ作成② 仮提出
10	Photoshop演習④	25	チラシ作成③ 修正 最終提出
11	Photoshop演習⑤	26	ポートフォリオ作成
12	illustrator・Photoshop プリント柄作成	27	ポートフォリオ作成
13	illustrator・Photoshop プリント柄作成	28	ポートフォリオ作成
14	illustrator・Photoshop プリント柄作成	29	ポートフォリオ作成
15	前期試験	30	後期試験
【成績評価方法】 提出物評価60% テスト30% 授業態度10%			
【教科書・参考書】 必要に応じてプリント配布			
【教材・教具】 筆記用具 描画用具 PC 配布レジュメ			

科目名	コンピュータ演習Ⅲ-A	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義40% 実習60%
時間数	60	作成者	藤原 忍 / 積 高之

【科目の到達目標】

《前期》ファッション分野において「価値を企画し、言語化し、発信し、検証できるプロデューサー人材」の育成を目指す。
・SNSアカウントの目的・ターゲットを明確に設計できる力・高校生および保護者視点を踏まえ、価値をわかりやすく翻訳できる力・縦型動画の企画・撮影・編集を行い、世界観を表現できる力・炎上事例や情報拡散構造を理解し、リスク管理を踏まえた発信ができる力・少額広告の設計および数値分析を行い、改善提案ができる力・SNS運用企画書として戦略を論理的にまとめ、説明できる力 感覚や流行に頼るのではなく、目的と根拠を持って発信できる実践的な企画力・発信力・分析力を備えた人材の育成を目標とする。

《後期》生成AI(テキスト／画像)を安全・適切に利用するための基本操作(プロンプト、出力評価、情報管理)を理解し説明できる。
ファッション分野の企画・販促・広報において、生成AIを用いた企画立案、コピー作成、画像生成、分析補助のワークフローを設計できる。
最新動向(新機能、事例、規制・ガイドライン)を継続的に把握し、自分の制作物に反映できる。

【科目の概要】

《前期》学科アカウント(Instagram・TikTok)を実際に立ち上げ、夏季開催のオープンキャンパスへの集客を目的としたSNS運用を実践する。アカウント設計、ターゲット分析、ペルソナ設計、コンテンツ企画、動画制作、広告配信、数値分析までを段階的に行い、企画から検証までの一連のプロセスを体験的に学ぶ。また、炎上事例分析やファクトチェック、生成AI活用なども取り入れ、創造性と同時に社会的責任を理解した発信力を養う。実在のイベントを題材としたプロジェクト型授業を通して、理論と実践を往復しながら、ファッション分野における「発信を設計できる力」を身につけることを目的とする。

《後期》生成AIの基礎(仕組み・得意不得意・限界)を押さえたいうえで、実務ユースケースを演習中心に学ぶ。

各回の冒頭で「ニュース・トピックス」を扱い、半期の期間内で重要なアップデートや事例を随時共有する。

最終課題として、生成AIを組み込んだ制作・運用プロセス(プロンプト、手順、成果物、リスク対策)をまとめて発表する。

1	SNSで高校生を動かす目的を理解し、運用企画書の背景・目的設定と自己紹介動画の構成設計を行う。	1	ガイダンス／生成AI概観：活用領域・授業ルール(ニュース・トピックス導入)
2	自己紹介ショート動画を撮影・編集・発表し、縦型動画の基本構成と表現方法を学ぶ。	2	基本操作：プロンプト設計(目的→制約→評価基準)／プロンプトログの取り方
3	炎上事例分析とファクトチェック演習を通して、SNSリテラシーとリスク管理の基礎を理解する。	3	情報の信頼性：ハルシネーション対策／出典確認／検索併用と引用
4	Instagram・TikTokの学科アカウントを設計し、他校オープンキャンパス投稿を分析して世界観を構築する。	4	リスク・コンプライアンス：著作権・肖像権・商標／個人情報／学内ルール
5	高校生および保護者ペルソナを作成し、生成AIを活用しながらカスタマージャーニーマップを設計する。	5	文章生成①：ブランドトーン設計／キャッチ・説明文／校正・リライト
6	オープンキャンパス担当講師への質問設計を行い、通常投稿用動画構成作成と生成AI動画制作を実施する。	6	文章生成②：企画立案(アイデア発散→絞り込み)／ペルソナ・訴求軸
7	生成AI動画の共有を行い、担当講師の回答分析を通して高校生向けに価値を翻訳する。	7	画像生成①：プロンプト(構図・素材・質感)／参照画像の注意点／出力評価
8	オープンキャンパス用動画の総コンテ作成とCTA設計を行い、コンテンツ戦略を明確化する。	8	画像生成②：スタイリング・ルック提案／簡易ビジュアル制作(モック)
9	台本を基に撮影計画を実行し、授業風景や通常投稿用素材を収集する。	9	SNS運用：投稿案生成→編集→検品／炎上・表現リスク／ワークフロー
10	オープンキャンパス動画および通常投稿動画の編集作業を行い、完成度を高める。	10	EC/LP：商品説明・FAQ・レビュー整理／CV観点の改善案作成
11	試写会を実施しKPIを設定したうえで広告に使用する動画を決定する。	11	分析補助：簡易リサーチ／競合比較／要約・分類／スプレッドシート活用
12	少額広告のA/Bテスト設計を行い、Instagramを中心に広告配信を開始する。	12	自動化・エージェント概念：タスク分解／テンプレ化／ツール連携の基礎
13	広告の初期結果を分析し、オープンキャンパス当日の撮影役割分担と夏休み投稿計画を策定する。	13	ケース演習：チームで企画→生成→検証(ニュース・トピックス反映)
14	広告効果とアカウント比較を分析し、NY研修や古着ブランド展開を見据えた今後のSNS運用計画を作成する。	14	最終課題制作：成果物の統合(プロンプト、手順書、チェックリスト)
15	SNS戦略と分析結果を言語化し、運用企画書を提出する期末試験を実施する。	15	テスト

【成績評価方法】

提出課題の評価 60%、期末試験 30% 授業態度 10%

【教科書・参考書】

プリント配布／オンライン資料(主要AIツールの公式ガイド、著作権・AIガイドライン、最新ニュースソース等)

【教材・教具】

講師の作成スライド スマートフォン、編集アプリ

科目名	コンピュータ演習Ⅲ-B	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 30% 実習 70 %
時間数	60	作成者	的場正和
【科目の到達目標】			
Figmaを用いたデザイン設計から、WordPressと生成AIを活用したサイト構築・公開まで、一連のウェブサイト制作スキルを習得する。ブランドの世界観を視覚化し、それを実際のウェブサイトとして実装・運用できる、実践的なプロデュース能力とウェブ活用力を身につけることを目標とする。			
【科目の概要】			
ファッションブランドやプロジェクトを想定したウェブサイトの企画・デザインから構築・公開までを通年で実践的に学ぶ科目である。前期はFigmaを用い、画面設計とデザインの基礎を習得し、ブランドの世界観を視覚化する。後期は教育用サーバー環境のもとWordPressを導入。既存テーマの活用に加え、生成AIをアシスタントとして駆使して独自のデザイン表現やコンテンツ制作を行うことで、現場で求められる総合的なウェブディレクション視点を養う。			
【授業計画】			
90分/コマ		前期	後期
1	ガイダンスと企画立案	1	ガイダンスと環境構築
2	ターゲット設定	2	テーマ選定とサイト構造の設計
3	Figma基礎演習	3	基本操作とページ作成の基礎
4	バナー模写演習	4	【AI活用①】コピーライティング生成
5	ウェブサイト企画	5	【AI活用②】ビジュアル・動画素材生成
6	ワイヤーフレーム作成①	6	主要ページの構築(トップ・About)
7	ワイヤーフレーム作成②	7	投稿機能の活用(News・ブログ)
8	デザイン基礎と制作	8	【AI活用③】デザインカスタマイズ基礎
9	ウェブサイト制作演習①	9	【AI活用④】独自セクションの実装
10	ウェブサイト制作演習②	10	プラグインによる機能拡張
11	ウェブサイト制作演習③	11	サイトの安全性と品質管理(QA)
12	ウェブサイト制作演習④	12	運用と集客の準備
13	ウェブサイト制作演習⑤	13	サイトの最終調整と公開作業
14	課題発表(プレゼンテーション)	14	課題発表(プレゼンテーション)
15	理解度確認(テスト)	15	理解度確認(テスト)
【成績評価方法】			
提出物評価60% テスト30% 授業態度10%			
【教科書・参考書】			
プリントを配布			
【教材・教具】			
筆記用具			

科目名	ワークショップ	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	前期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 50 % 実習 50 %
時間数	60	作成者	上田久美子

【科目の到達目標】

現在進行形で活躍するゲスト講師から刺激を受け、学生のクリエイションやプランニングに活かす事を目的とし更には卒業後のキャリア形成に向けた視野を広げると共に、これからのファッション業界をはじめとする様々な分野での活躍を促進するきっかけとなる様に努める。

【科目の概要】

基本的に毎回異なるゲストスピーカーの講義やワークショップを行う。
学内の教員でFP学科生と交わる機会のない人材や、学外で活動されている企業・公人・様々な分野のクリエイター等の多岐に渡るゲストを迎え入れ、レギュラー科目外の刺激や視座を与える目的である。

【授業計画】

90分/コマ

- 1 ①ゲストスピーカー講義
- 2 ワークショップと成果発表又はレポート
- 3 ②ゲストスピーカー講義
- 4 ワークショップと成果発表又はレポート
- 5 ③ゲストスピーカー講義
- 6 ワークショップと成果発表又はレポート
- 7 ④ゲストスピーカー講義
- 8 ワークショップ グループ製作
- 9 ⑤ゲストスピーカー講義
- 10 ワークショップと成果発表又はレポート
- 11 ⑥ゲストスピーカー講義
- 12 ワークショップ グループ発表 フィードバック
- 13 ⑦ゲストスピーカー講義
- 14 ワークショップ又はレポート
- 15 ⑧ゲストスピーカー講義
- 16 ワークショップ又はレポート
- 17 ⑨ゲストスピーカー講義
- 18 ワークショップ又はレポート
- 19 ⑩ゲストスピーカー講義
- 20 ワークショップ又はレポート
- 21 ⑪ゲストスピーカー講義
- 22 ワークショップ又はレポート
- 23 ⑫ゲストスピーカー講義
- 24 ワークショップ又はレポート
- 25 ⑬ゲストスピーカー講義
- 26 ワークショップ又はレポート
- 27 ⑭ゲストスピーカー講義
- 28 ワークショップ又はレポート
- 29 ⑮ゲストスピーカー講義
- 30 ワークショップ又はレポート

【成績評価方法】

提出物評価60% 発表30% 授業態度10%

【教科書・参考書】

ゲスト講師により適宜

【教材・教具】

ゲスト講師により適宜

科目名	プレゼンテーション技術	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 100 % 実習 0 %
時間数	60	作成者	佐藤紫乃

【科目の到達目標】

対面(リアル)非対面(オンライン)ともに見聞きしたことを、自分で考え・分かりやすく・堂々と伝えられる人材の育成を目指します。

【科目の概要】

多くの情報の中から自分で考え調べ精査し、自分の言葉で発信できる人材が求められる時代です。この授業は、自分の考えを相手に分かりやすく伝えられる力を養うために、プレゼンテーションの基礎技術を学び、多様なテーマについてプレゼンテーションを作成し発表する実践型授業です。

【授業計画】

前期 90分/コマ		後期	
1	前期オリエンテーション プレゼンテーションの基礎	1	オリエンテーションNY下調べ発表
2	プレゼンテーショントレーニング1-1 自己紹介(自己PR)作成	2	・プレゼンテーショントレーニング4 ・WWDプレゼンテーション グループ決め、記事選定
3	プレゼンテーショントレーニング1-2 自己紹介(自己PR)発表	3	WWDプレゼンテーション 骨子作成、リサーチ
4	プレゼンテーショントレーニング2-1 先生からの学び インタビューシート作成 アポイント取り	4	WWDプレゼンテーション リサーチ、作成
5	プレゼンテーショントレーニング2-2 先生からの学び 作成	5	WWDプレゼンテーションリサーチ、作成
6	プレゼンテーショントレーニング2-3 先生からの学び 発表	6	WWDプレゼンテーション 発表
7	プレゼンテーショントレーニング3-1 おすすめ商品 作成	7	プレゼンテーション振り返り 相互フィードバック
8	プレゼンテーショントレーニング3-2 おすすめ商品 発表	8	自由研究プレゼンテーション リサーチ、作成
9	NY発ブランドの日本での立ち位置 導入、作成	9	自由研究プレゼンテーション リサーチ、作成
10	NY発ブランドの日本での立ち位置 作成	10	自由研究プレゼンテーション リサーチ、作成
11	NY発ブランドの日本での立ち位置 作成	11	自由研究プレゼンテーション リサーチ、作成
12	NY発ブランドの日本での立ち位置 作成、リハーサル	12	自由研究プレゼンテーション 発表 ※12・13は同日
13	NY発ブランドの日本での立ち位置 発表※13・14は同日	13	自由研究プレゼンテーション 発表 ※12・13は同日
14	NY発ブランドの日本での立ち位置 ー 発表※13・14は同日	14	プレゼンテーション振り返り 相互フィードバック
15	プレゼンテーション振り返り 相互フィードバック ※夏期休暇課題② NY研修でやりたいことリサーチ プレゼンテーション作成	15	「2025ベストバイ」プレゼンテーション 発表

【成績評価方法】

提出物評価 40%、テスト(発表)40%、授業態度20%

【教科書・参考書】

プリントなどを適宜配布

【教材・教具】

筆記用具、ノートパソコン、プロジェクター(液晶)、ホワイトボード

科目名	英語Ⅲ	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 100 % 実習 0 %
時間数	60	作成者	佐藤紫乃

【科目の到達目標】

英語で言いたいことが伝えられる、相手の言っていることが理解できることを目標とします。前期は、英語でのインプットで語彙・表現の知識を広げ、アウトプットで英語を使用することに慣れます。後期では、英語でのプレゼンテーションの基礎を学び、最終目標としてNY研修で行う英語プレゼンテーションを発表できることを目指します。

【科目の概要】

ファッション業界のみならず、様々な生き方を選んでいく学生にとって英語が身近にあることは必須となりつつあります。英語に親しみがあるということは、今後の可能性を広げ、生き方にも影響を及ぼします。この授業では英語の知識習得と運用練習を行いながら、1対1でのコミュニケーションはもちろん1対複数のコミュニケーションも学びます。

【授業計画】

前期 90分/コマ		後期	
1	前期オリエンテーション	1	後期オリエンテーション 英語プレゼンテーション基礎
2	インプット1英文パターン解説	2	英語プレゼントレーニング1-1
3	アウトプット1英文作成・会話	3	英語プレゼントレーニング1-2
4	インプット2英文パターン解説	4	英語プレゼントレーニング2-1
5	アウトプット2英文作成・会話	5	英語プレゼントレーニング2-2
6	1～2 復習テスト	6	英語プレゼントレーニング3-1
7	インプット3英文パターン解説	7	英語プレゼントレーニング3-2
8	アウトプット3英文作成・会話	8	NY発ブランドの日本での立ち位置 英語版作成
9	インプット4英文パターン解説	9	NY発ブランドの日本での立ち位置 英語版作成
10	アウトプット4英文作成・会話	10	NY発ブランドの日本での立ち位置 英語版作成
11	3～4 復習テスト	11	NY発ブランドの日本での立ち位置 英語版作成
12	スピーキング・リスニング 総合校留学生交流授業	12	NY発ブランドの日本での立ち位置 英語版作成
13	スピーキング・リスニング 総合校留学生交流授業	13	NY発ブランドの日本での立ち位置 発表(後期期末テスト)※13・14は同日
14	期末テスト(筆記)	14	NY発ブランドの日本での立ち位置 発表(後期期末テスト)※13・14は同日
15	期末テスト(実技)	15	発表振り返り、相互フィードバック NYプレゼン代表者選出

【成績評価方法】

提出物評価20%、テスト(発表含む)50%、授業態度30%

【教科書・参考書】

2年生で使用していた『改訂新版 初級英語音声学 CD付』『中学英文法 Fine[改訂版]』も引き続き使用

【教材・教具】

講師: ノートパソコン、モニター、ホワイトボード

学生: 筆記用具、A6(5号)サイズノート、スマートフォン、ノートパソコン

科目名	キャリアデザインⅡ	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	前期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 60% 演習 40%
時間数	30	作成者	松山 亨
【科目の到達目標】			
本格的な就職活動開始に向けて、自分が何を準備し、どのように表現して相手に伝えるべきかを、キャリアデザインⅠで整理した自分自身の情報をもとに考え、整えていきます。			
同時に企業で実施されるインターンシップについても、積極的に参加するための心構えを身に付けます。			
【科目の概要】			
自分自身がデザインしたキャリアプランを実現に近づけるため、受け入れ側の目線に立ち、自分自身の何を伝えるべきかを考えます。また、同年代の大学生に負けない自己表現のあり方を知るとともに、様々な応募・選考スタイルへの対応方法など実践的な演習に取り組みながら等身大の自分をプロデュースする力を身に付けます。			
【授業計画】			
90分/コマ		前期	
1	本科の概要説明 実践的キャリアデザインとは何か		
2	自己分析と自己理解		
3	3つの自己概念 キャリアデザイン形成のための3要素を考える		
4	自己理解を進め、自身の現在のWILL・CAN・MUSTを認識する(演習)		
5	自己理解を進める ①自分のタイプ(3レターコード)を知る		
6	働き続けるためのこだわり キャリアアン		
7	応募書類作成支援①		
8	応募書類作成支援②		
9	応募書類作成支援③		
10	実践的面接対策①		
11	実践的面接対策②		
12	実践的面接対策③		
13	実践的面接対策④ ロールプレイ振り返り		
14	具体的就職活動内容と就活スケジュールの確認		
15	試験		
【成績評価方法】			
提出物評価50% テスト30% 授業態度20%			
提出物は期限内提出と作成内容の総合評価			
【教科書・参考書】			
講師作成オリジナルテキスト(事前配布) 参考資料と提出課題は授業内で配布			
【教材・教具】			
PC(ネットワークに接続できるもの)			
筆記用具 ノート(提出を求める場合がある)			

科目名	縫製工学	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	後期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 100 %
時間数	30	作成者	相馬成男

【科目の到達目標】

専門学校では注文服(オートクチュール)作りを主体に履修するが、社会へ出ると既製服(プレタポルテ)が主流であり、工業生産的もの作りの道理、実務工程の知識を習得し、自分を取り巻く関係者と円滑に意思疎通が図れる技術者を目指す。

【科目の概要】

国内繊維産業は長年の厳しい国際競争の中で、①高機能・高性能繊維、②高品質・高感性の素材、③精緻な縫製技術の3点が強みとしてあげられているが、衣料品の輸出は先進国の中で極めて少ない。一方で持続可能な開発目標(SDGs)達成が掲げられており、これら現状認識をしながら、アパレル企業が行う技術的業務の基礎知識をテキスト、パワーポイント及び動画と適宜配布資料を用いて講義を進める。

【授業計画】

90分/コマ	前期	後期
		1 第1章 アパレル産業の歴史と変遷 第11章 世界と日本の繊維生産 2 第2章 アパレル製品の商品企画 3 第3章 アパレル製品の副資材 - 1 4 第3章 アパレル製品の副資材 - 2 5 各論 第3章 スポーツウエア 6 第4章 アパレル製品用材料の 試験と検査 7 第5章 アパレル製品の縫製 と二次加工 8 各論 第4章 下着(インナーウエア) 各論 第5章 靴下 9 第6章 アパレル製品の検査 と品質管理 10 第7章 アパレル製品の安全・安心 11 各論 第1章 紳士服 - 1 12 第8章 アパレルの表示と関連法規 13 第9章 アパレル製品の洗濯 とメンテナンス 14 各論 第1章 紳士服 - 2 各論 第2章 婦人服 15 第10章 アパレル製品の品質管理 と消費者対応

【成績評価方法】

毎回講義後の課題(宿題)の評価:50%、期末試験:40%、授業態度:10%

【教科書・参考書】

編集:一社団法人 日本繊維技術士センター、『業界マイスターに学ぶ「アパレルの基礎知識」』、
 発行所:金壽堂出版有限会社、発行日:2020年7月3日

【教材・教具】

筆記用具

科目名	知的財産法	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	後期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 100 %
時間数	30	作成者	小柴 昌也
【科目の到達目標】 本講義では、私たちの生活と関連のある法律の仕組みと本質について見極め、特にファッションと知的財産法（商標・意匠・著作権など）がどのような関係にあるかを判断できるリーガルマインドを構築することを目標とする。また、授業内容は、国家資格でもある「知的財産管理技能士」の三級取得を念頭においたものとする。			
【科目の概要】 知的財産は、ファッション業界のような企業活動だけでなく、日常生活とも密接な関係にある。また、現代では、その知的財産の保護と利用との間のバランスを図っている法律の役割が極めて重要となってきた。本講義では、ファッションを取り巻く知的財産を取り上げながら、現代社会における知的財産の法的枠組みを理論的・体系的に紹介する。			
【授業計画】 90分/コマ		後期	
1	ガイダンス（講義の進め方など）、法律とは何か		
2	ファッション業界を取り巻く法律（知的財産法を中心に）		
3	特許法・実用新案法 目的・保護対象・要件・手続き・活用・侵害		
4	意匠法（1）目的・保護対象・要件・手続き・活用・侵害		
5	意匠法（2）ファッションとの関連		
6	商標法（1）目的・保護対象・要件・手続き・活用・侵害		
7	商標法（2）ファッションとの関連		
8	著作権法（1）目的・保護対象・著作者・著作者人格権		
9	著作権法（2）財産権・著作隣接権・侵害		
10	著作権法（3）ファッションとの関連		
11	ネットショップ関連法規（会社の設立からネットショップ構築・運営まで）		
12	国際的な取引における知的財産（条約）		
13	その他の知的財産に関する法律		
14	まとめ		
15	試験		
【成績評価方法】 授業態度を含めた総合評価と期末試験 100%			
【教科書・参考書】 知的財産管理技能検定 3級公式テキスト[改訂15版] アップロード （2024/7） ※最新のもの			
【教材・教具】 筆記用具（ペン、蛍光ペン、付箋など）			

科目名	消費者行動学	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	前期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義70%、実習30%
時間数	30	作成者	山口 真衣子
【科目の到達目標】 消費者の購買プロセスを心理学的側面から理解し、ターゲット像の具現化に役立てる。 「ターゲット」「ペルソナ」「プライムプロスペクト」を的確に設定できる。			
【科目の概要】 消費者行動学や心理学における、基本的な理論の認知 ターゲティングの理解と、具体例を用いた演習			
【授業計画】 90分/コマ		前期	
1	オリエンテーション 自己紹介/授業の進め方について		
2	消費者行動学の基本的概念		
3	各種理論の紹介と実証①		
4	各種理論の紹介と実証②		
5	ターゲティングの基礎知識		
6	ターゲット層の理解①		
7	ターゲット層の理解②		
8	ターゲティング実習（提出物扱い）		
9	数的根拠の揃え方		
10	広告宣伝に見るターゲット		
11	戦略シート作成（提出物扱い）		
12	期末発表 準備①（商品選定）		
13	期末発表 準備②（ターゲティング）		
14	期末発表（テスト扱い）		
15	期末発表（テスト扱い）		
【成績評価方法】 提出物評価50%、テスト30%、授業態度20% ※講義は参加型で進める為、授業態度評価を20%とします			
【教科書・参考書】 スライドのみ			
【教材・教具】 個人PC、スマホ			

科目名	人的資源論	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	後期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 100 %
時間数	30	作成者	近藤浩章

【科目の到達目標】

1. 人的資源管理を身近なものとして捉える眼を養う。
2. 人的資源管理を実践する各テーマの課題と対応について理解する。
3. ビジネスリーダーとして活躍するためのスキルアップ目標を持つ。

【科目の概要】

人的資本経営の重要性が増している現在、学生は、ヒトがその能力を最大限に発揮する最適な人的資源管理を実践していくことが期待される。授業では、各テーマにおける理論の解説にとどまらず、経営の現場における実践とその課題を成功・失敗事例を交えてわかりやすく解説する。

【授業計画】

後期

90分/コマ

- 1 講義の概要、人的資源管理の目的
- 2 経営の変遷と人的資源管理
- 3 働くこととは
- 4 従業員のキャリア形成
- 5 人と組織の関係
- 6 演習：組織づくりとコミュニケーション
- 7 採用と配置
- 8 人材育成
- 9 評価と処遇
- 10 演習：チームマネジメント①
- 11 演習：チームマネジメント②
- 12 人事管理における諸課題
- 13 演習：人事管理システム①
- 14 演習：人事管理システム②
- 15 人的資源論まとめ

【成績評価方法】

提出物評価40% テスト50% 授業態度10%

【教科書・参考書】

プリントを配布

参考書『入門人的資源管理 第2版』中央経済社 奥林康司他著 2011年

参考書『人事管理』有斐閣ストウディア 平野光俊、江夏幾太郎著 2018年

【教材・教具】

筆記用具、PC

科目名	論文基礎研究	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	後期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 30% 実習 70 %
時間数	30	作成者	上田久美子
【科目の到達目標】			
クリエイティブな表現から始まり、感性的な分野を論理的に分析できる力を身に付け、様々な事象から課題の発見と、その解決策を考える事のできる人材育成を目指す。			
【科目の概要】			
FP学科4年次の「卒業論文」の為の事前学習。4年次での自分分野の研究テーマを絞り込む為に、論文の基礎的なマナーや書式を学ぶ。FP学科卒生の強豪は大卒者なので、遜色のない知識とスキルを身に付ける。			
【授業計画】			
90分/コマ		後期	
1	論文とは 論文・小論文・レポート・随筆・作文、、、との違いについて		
2	卒業生の論文を読んでみる 論文のマナーや書式について		
3	文書トレーニング① 一般論文を読んで要約文を作成する		
4	文書トレーニング② 一般論文を読んで要約文を作成する		
5	事例研究① ファッション関連の研究を解説する		
6	事例研究② ファッション関連の研究を解説する		
7	調査方法① テキストデータ収集の方法とルール		
8	調査方法② 定量的データ収集の方法とマナー		
9	分析方法 SWOT、アンケート、ヒアリングの分析方法		
10	分析結果の視覚化 図表やグラフ、ポジショニングマップ等のビジュアル化		
11	研究テーマ設定① 研究テーマとしてふさわしい条件、研究箇所の絞り込み方		
12	研究テーマ設定② 自分分野の先行研究を探す(論文・著書・WEB等)		
13	研究テーマ設定③ 自分分野の先行研究を探す(論文・著書・WEB等)		
14	卒業論文テーマ発表(テスト) 研究テーマ、課題、問いについて		
15	評価と次年度までの準備		
【成績評価方法】			
提出物評価60% テスト30% 授業態度10%			
【教科書・参考書】			
石黒圭(2020)「この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本」日本実業出版社 レジュメ等適宜に配布			
【教材・教具】			
PC、ノート、筆記具、書籍。論文等			